



●顕彰プレートの除幕を祝い、地元住民による伝統舞踊も行われた。①顕彰プレートの前で永続的な交流を誓う押山村長②とマトレーレ村長③27日午前、ペルー・マチュピチュ村

【マチュピチュ＝本宮支局長・斎藤優樹】南米ペルー・マチュピチュ村で27日（日本時間28日）に行われた野内与吉顕彰プレートの除幕式では、出席者が大玉村とマチュピチュ村の友好都市協定締結10周年を祝った。大玉村の押山利一村長

マチュピチュと大玉村 友好都市10周年祝う

は「今まで以上に絆を大切にしたい」と述べた。大玉村出身でマチュピチュ村初代村長の野内は1917年、契約移民として21歳でペルーに渡った。クスコ・マチュピチュ間の鉄道拡張工事に携わり、マチュピチュ集落（現マチュピチュ村）では湧き水を引いたホテルを開業したり、水力発電所を建設したりするなど村の発展に貢献。村民の支持を受け、48年に初代村長に就いた。

野内与吉の次男「ずっと続くこと悲願」

▲10月29日 福島民友新聞掲載

10月27日（日本時間28日）にどんなことがありましたか。

野内与吉さんとはどのような人ですか。

野内さんがマチュピチュに行った当時の日本やマチュピチュの様子について、調べて分かったことをまとめてみましょう